

データで読む平成期の家族問題

～四半世紀で昭和とどう変わったか～

湯沢 雍彦著 朝日新聞出版

【内容紹介】平成も早いもので27年目。平成期に入りバブル経済が破たんし、「発展の時代」から「不況の時代」へと突入し、生活スタイルや親子関係をはじめ、家族の形も変化しました。大きな震災も何度か経験し、正規雇用の減少、少子化などの社会問題も背景にあり、家族の在り方は今後も変わっていくのでしょうか。この四半世紀で何がどう変わったのかを、データ分析を織り交ぜ、昭和と比較しつつ様々な角度から読み取ることができる一冊です。



下諏訪町立図書館 濱 智栄子

1月4日～12日 子ども図書館探検隊を行っています。調べものをしてお宝を手に入れよう！

★秋宮リンク 「氷上祭」のお知らせ★

日時：平成27年1月25日（日）9：00～12：00

（悪天候中止）

場所：秋宮スケートリンク

※事前申し込みは不要です。当日、秋宮スケートリンクにお越し下さい。

問い合わせ先：下諏訪体育館（27-1455）秋宮スケートリンク（28-7555）

氷上ボウリング、障害物競走、そり引きゲーム、など楽しいイベントがたくさん。

大好評の下駄スケート体験もあります。



フリースケートリンク



だるま引き



そり引き

1月6日

昨年八月に移転、新築した、岡谷蚕糸博物館を見学した。館内では新たに「宮坂製糸所」も併設され、実演している生糸作りが興味深かった。

現在、年間約一トンの生糸、織物で約千反分を生産しているこの工場では、諏訪の産業が製糸業から精密業へと移行していく状況下であつても、決してその火種を絶やすことはなかった。

煮上がった繭を筥にとり、再び八十度もある湯の中へ浸す。何気なく糸を取っているように見えるが、職人さんたちの手は、熱湯でふやけ真っ赤になっている。

見学者の中には、持っていた杖を人に預け、自ら自動操糸機の前に立ち、昔を懐かしむ方もいるという。

諏訪の歴史や職人さんたちの苦労に少しだけ触れたような気がしたが、私の心に深く残ったものは、天蚕（山繭）が生み出す淡い黄緑色の美しい糸であつた。



（篠遠良子）

我が家の年末年始



南四王 小柄洞 和善

いわゆる一般的な大掃除を妻の指南を受けつつイヤイヤながら済ませると、あとは正月を迎えるばかりとなる。

我が家の年末年始は皆様に披露できるほどのものでなく、ちよつとばかり料理とお酒のボリュームが増すだけで365分の1が三、四日続くだけ、が基本である。

社会人として一人暮らしを謳歌している上二人の子どもが帰ってきて三人兄弟がそろう、賑やかにするのは別段正月にかぎったことでもないの、「おうっ、このごろどうだ？」ぐらいの感じでしかない。

そして十二月三十一日、人込

みに採まれることをイヤがる我が家共通のDNAのため、暗くなつたばかりのうちに諏訪大社への参拝を済ませ、あとは紅白、酒盛り、お年玉争奪トランプ大会と続く。

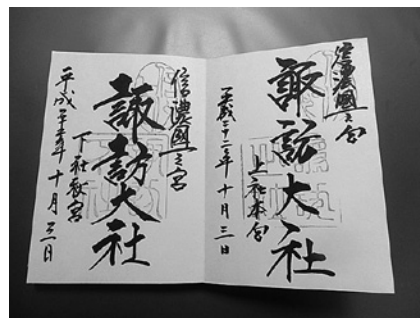
こうしてまた年が明ける。我が家特有（というほどでもないが）の年始の過ごし方は、正月三が日も過ぎたころに始まる。

これまた雑踏を避け一月三日過ぎの晴れた日に近隣の神社やお寺を訪ね「御朱印」をいただきに出かけることにある。

はるばる成田山や川崎大師に行くわけでもなく、せいぜい甲府から県内止まりである。

初穂料と称するお布施はおおよそ五〇〇円。多いときは欲をかいて一度に四、五箇所「はし

ご」したりする。これが我が家の近年の年始のささやかな楽しみである。お参りを済ませてからいただくのが作法。お参りで願い事をむやみやたらにすると叶つた際お礼にいかねばならないため、ひたすら感謝を唱える。そして御朱印をいただく。スタンプなど違って実際に書いていただけのものであり、一文字一文字眼前でいねいに書いていただく様に再び感謝。



御朱印帳

また神社にはその成り立ちから「ご神水」が湧き出ているところが多々ある。水道水以外は口にしないというほど潔癖症でない私はそれをペットボトルに汲んできて、コーヒーやお茶を淹れたりもする。

それが興じて最近では湧き水巡りもやみつきになつてきた。さて今年はどこへ行くのか？みなさんもまずは諏訪大社の四宮の御朱印を集めてはいかがでしょう。

